

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から  
石井敏夫コレクションより

第64回

# 第14師団機動演習

機動演習とは、作戦計画が実際の場面で機能、遂行できるかを確かめるもの。陸軍では、一八九二(明治二十五年)年に近衛第一、第二の三個師団により宇都宮で行われたのが最初の特別大演習である。

陸軍の演習には、演習令に定められた「諸兵連合演習」「師団秋季演習」「師団対抗演習」「特別大演習」「各兵種特別演習」「特別陣地工房演習」「衛生隊演習」の七つと、「陸海軍連合演習」「幹部演習」があった。

ここに掲載する「第十四師團機動演習實寫工ハガキ」は、その様子を文字通り実写したもので、多くの観衆が見学する中、

実戦さながらの演習が行われたことが見てとれる。実施年月日は不明だが、絵葉書の解説文にある「山田師団長閣下」の文字から山田忠三郎中将が師団長をつとめた大正初期の「師団秋季演習」と推測。また、「桑島村」「猿山」「横田」などの地名から宇都宮の東南に位置する鬼怒川周辺で行われたことが分かる。

「師団秋季演習」とは、毎年秋に師団を適宜編成区分して、対抗または仮設敵に対する軍事演習を行うものである。期

日は往復途中と休日を除く八日間だった(フリー百科事典「ウィキペディア」)。さぞかし大がかりな演習であつたのに違いない。



(鬼怒川河畔) 第十四師團機動演習。鬼怒川河畔における歩兵部隊。背後には演習を見守る子どもの姿が



鬼怒川での架橋演習



桑島村における高級幹部休息所。左端が山田師団長



下新田付近で行われた砲兵陣地進入